

データでつなぐ“みち・まち・ひと” —Japan Mobility Data Spaceが拓く スマートモビリティ2.0の未来—

2025年10月29日

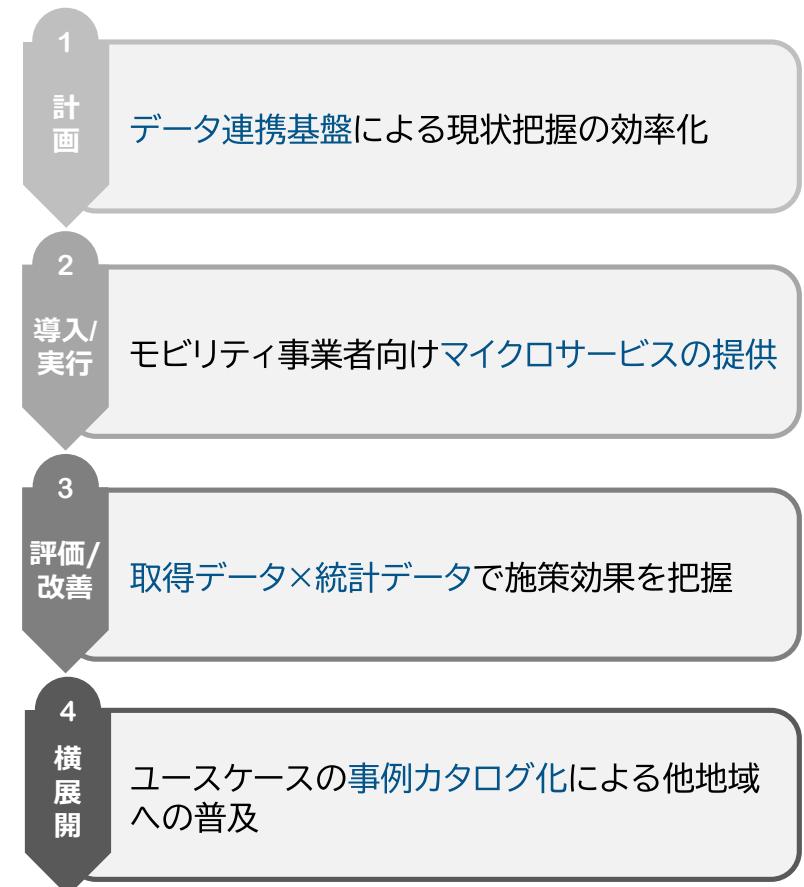
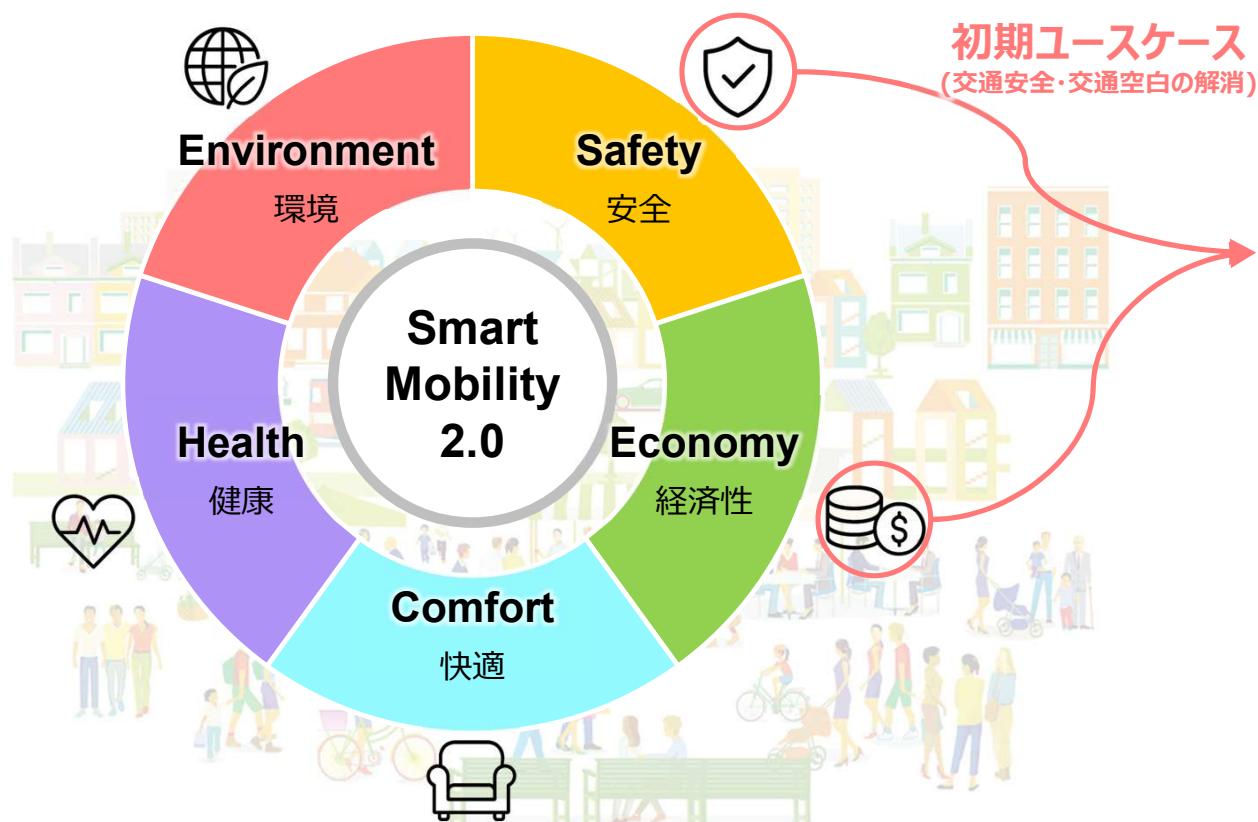
株式会社NTTデータ

社会基盤ソリューション事業本部 社会DX&コンサルティング事業部



NTTデータが目指す姿

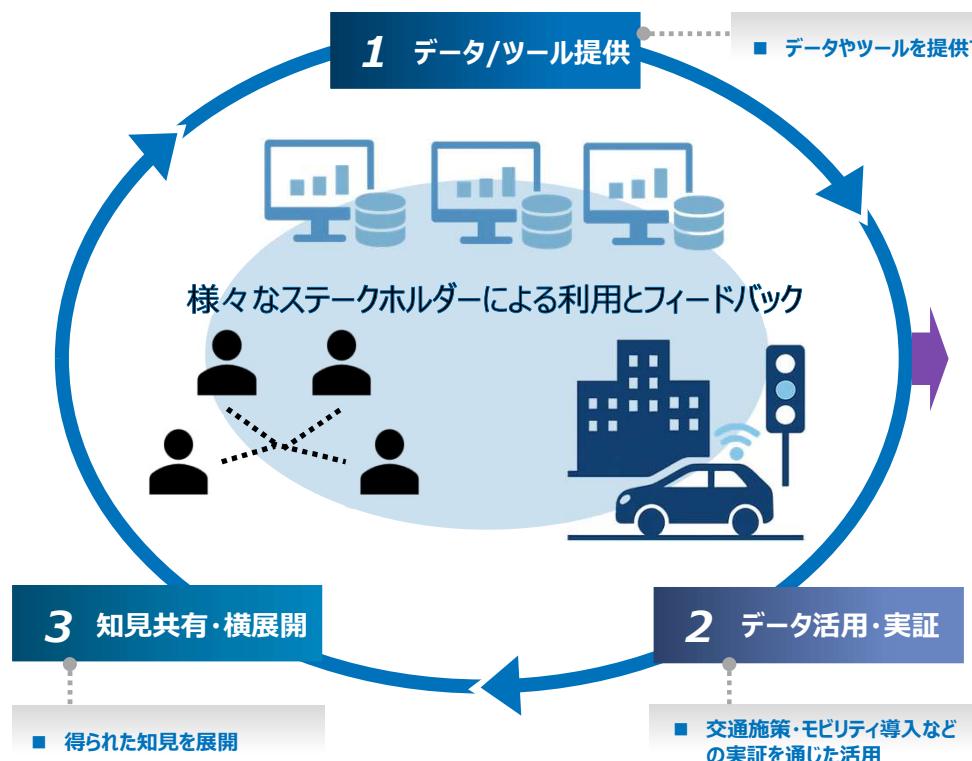
- NTTデータは、事故がゼロの世界・交通空白が解消される安心安全に移動できる世界を目指しており、強みであるデータ利活用ノウハウを活かし、モビリティ分野全体の下支えとなるようなデータプラットフォームを提供することで、Well-beingなモビリティ社会（Smart Mobility 2.0）を実現したいと考えております。



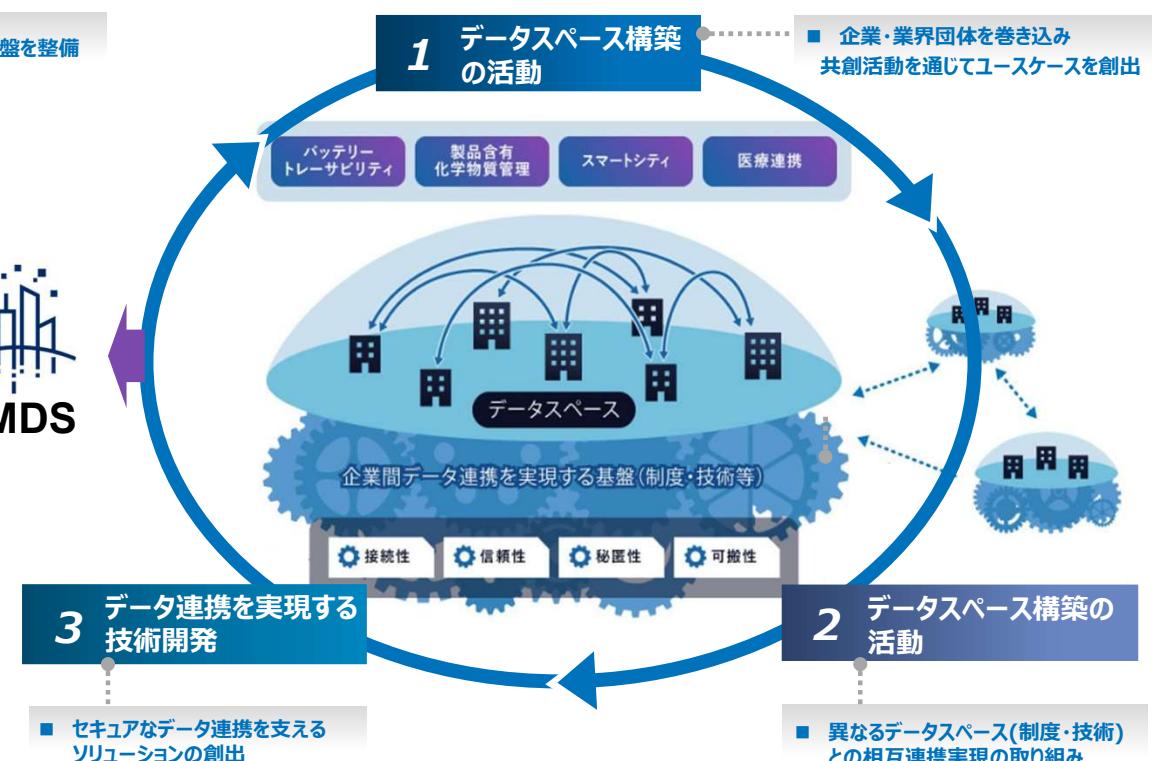
NTTデータの取り組み

- 目指す姿の実現には、従来のデータプラットフォームの整備にとどまらず、社会実装に向けて多様なステークホルダーや他分野のデータスペースと連携し、価値を共に創り出すプロセスが重要と考えております。
- SIPに参画する多様なステークホルダーやユースケースと協働してJapan Mobility Data Space（以下、JMDS）を構築し、持続的なモビリティ社会の実現を目指しています。

ステークホルダーとのデータ連携

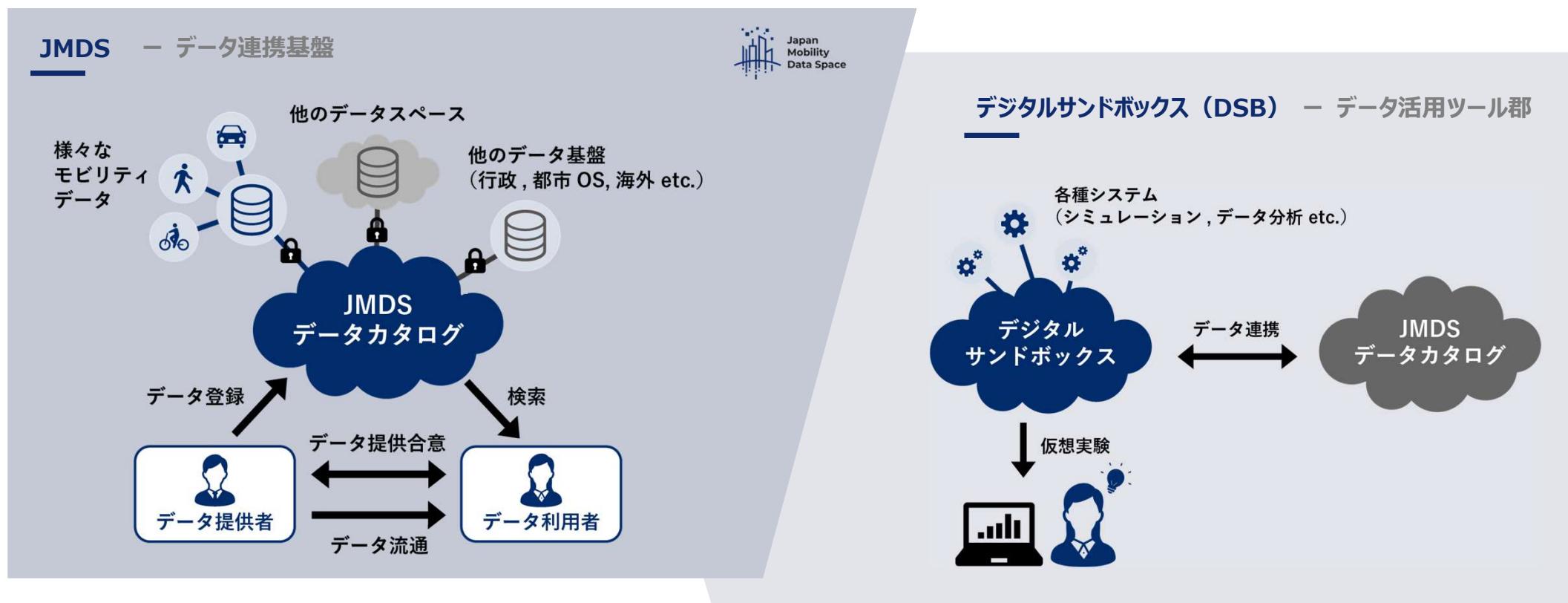


データスペースの連携



JMDS データ連携基盤とデジタルサンドボックス

- **データ連携基盤**は、分散したモビリティ関連データを連携・活用するため、**一元的なデータの取得を可能**とします。
- **デジタルサンドボックス**(データ活用ツール群)はJMDSから取得したデータを活用し、**データ加工/データクレンジングや可視化/分析など**を行える環境を**提供**します。



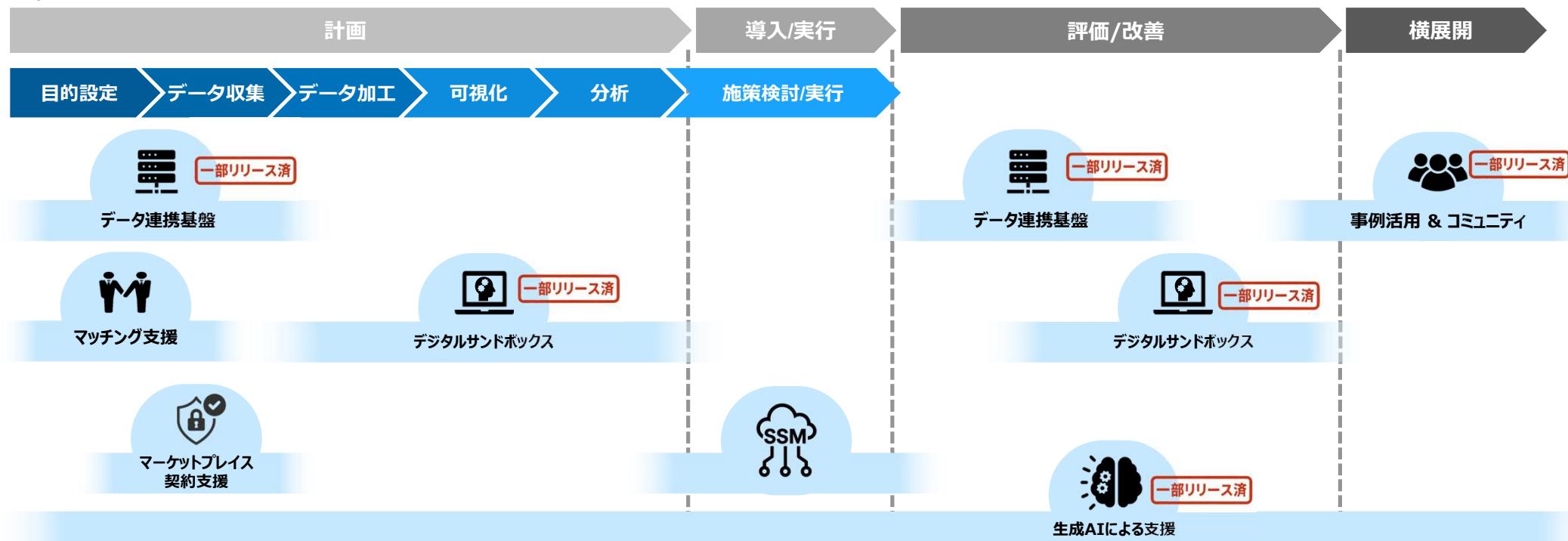
JMDS 提供予定サービスの全体像

- 計画、導入/実行、評価/改善、横展開 等、施策のフェーズ毎にJMDSが隙間なくサービスを提供することにより、利用者は効率的で効果的な施策の実行を可能とします。

● その他 提供サービス



● 施策フロー上の提供予定サービス



JMDSの提供価値

- 分散するデータ・ツール・知見をつなぎ、計画から横展開までの工程を標準化・高速化します。

	AS-IS（業務におけるペインポイント）	TO-BE（JMDS導入後）
計画	<ul style="list-style-type: none">必要なデータが散在し、入手・加工に多大なコスト。要件定義や優先度付けが属人的。	<ul style="list-style-type: none">カタログ横断検索+AI支援で必要データを即時特定。メタデータにより品質・権利・取得方法が一目で分かり、計画立案を標準化
導入/実行	<ul style="list-style-type: none">事業者ごとに仕様がバラバラ。入手・契約・共有が分断し、統合が難しい。	<ul style="list-style-type: none">SSM（Shared Service for Mobility）で予約・運行・決済・労務・顧客管理をワンストップ化。共通API/ID・権限/ログにより、外部アプリや既存システムとも即時連携
評価/改善	<ul style="list-style-type: none">効果検証のデータ収集が限定的で、前後比較や説明資料作成に手間。改善は試行錯誤的	<ul style="list-style-type: none">デジタルサンドボックスで分析・シミュレーションを再現可能に実行。Before/After可視化やダッシュボード出力で改善サイクルを高速化
横展開	<ul style="list-style-type: none">成功失敗の知見が散逸し、他地域・他分野で再利用しづらい。	<ul style="list-style-type: none">事例カタログとコミュニティで知見をテンプレ化・再利用。運用・費用・効果の再現性を高め、全国展開が容易に。

* SSM = モビリティ運用の共通業務サービス群（予約・運行・決済・労務・顧客/通知等）。カタログ/サンドボックスとAPIで連携。

JMDS利用による業務効率化・質の向上

- JMDSを導入することで、時間のかかる分析作業の負荷を軽減し、導入/実行や評価/改善等本質的な作業に注力できる状況に繋げます。

1 現状分析プロセスの工数削減

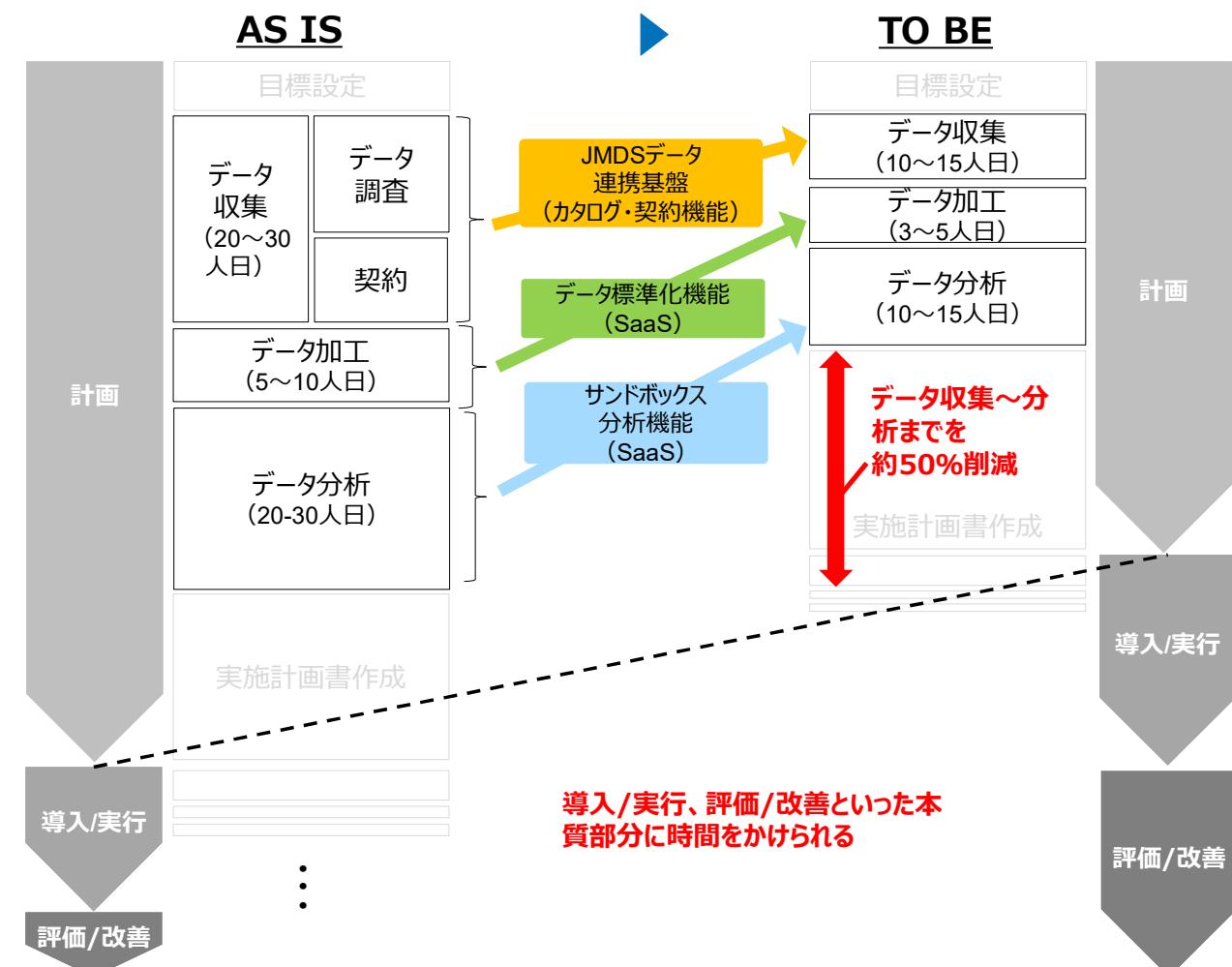
データ収集～分析までを一気通貫して提供することで、**分析業務を約半分以下の工数に効率化**できると想定

2 導入・実行/評価・改善プロセスの質向上

本質部分である施策実行や評価・改善プロセスに時間をかけられるようになることで、**より付加価値の高い施策**へと繋げることができます

3 高度な分析環境の実現

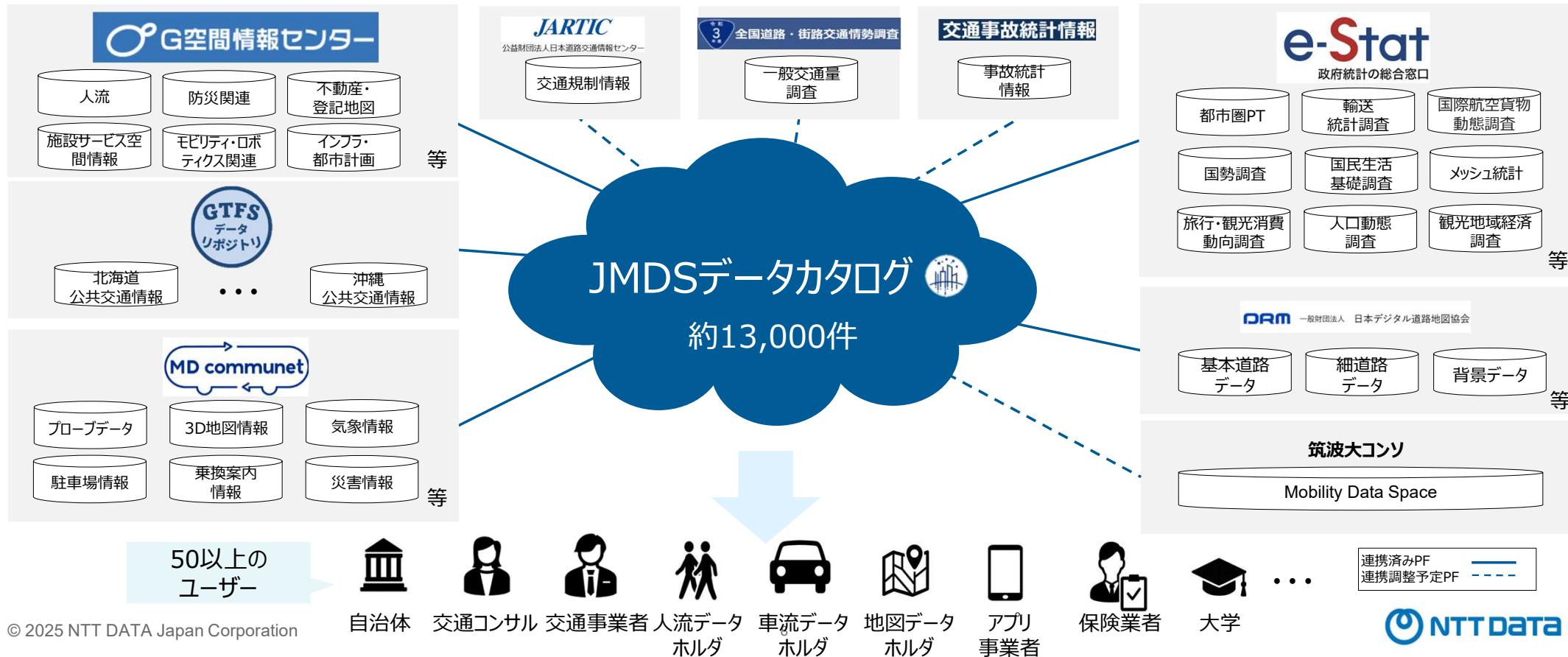
大学・研究機関や建設コンサルタント等のツールを利用することで、**より専門性の高い分析**が可能となります



取り組みの進捗状況

- 直近はJMDSに搭載される予定のツールで必要なデータやオープンデータを中心にデータ連携を進めており、次年度以降は有償データとの連携も行う予定です。
- 2025年10月時点で50以上の企業・団体がJMDSのアカウントを発行・ご利用いただいており、今後も拡大を行っていきます。

オープンデータのダウンロードAPI機能や
JMDSアカウントを経由した DRM-API の提供を開始



JMDSの活用ユースケース例

- 前述のサービスを地域交通や交通安全などのユースケースに活用させることで、自治体様、交通事業者様、コンサルタント各社様等、様々な方々とご連携しながら、地域が抱える多様な課題解決に貢献していく所存です。

1

地域交通

地域一体型の仕組みにより、バスや鉄道などの地域交通の維持・運用を支援するとともに、交通空白地などにはオンデマンド交通などの代替手段を検討。**地域の特性や課題に応じた持続可能なモビリティの構築**を目指す。



2

交通安全

車両の移動データや交通シミュレーションなどを活用し、道路管理者による危険箇所の特定や細街路の整備計画を後押しする。加えて、景観や快適性にも配慮した道路の再設計を通じ、**交通安全と地域価値の向上を両立**させる。



JMDS利用ご協力のお願い

- JMDSは、自治体様、交通事業者様、コンサルタント各社様など、地域交通や交通安全をはじめとし、様々なモビリティに関連する方々からのご意見を糧に、より多くの方にお役立てできるサービスへ改善する取り組みが重要と考えています。
- つきましては、忌憚のないご意見を賜りたく、ぜひご登録のうえ、ご協力いただけますと幸いです。

JMDS HP



- ✓ JMDSの利用にはアカウント登録が必要となります。利用を希望する際には、Japan Mobility Data Space運営事務局（japanmobilitydataspace@am.nttdata.co.jp）までご連絡ください。